



一般社団法人日本物流団体連合会
Japan Association for Logistics and Transport

News Release

〒100-0013
東京都千代田区霞が関 3 丁目 3 番 3 号
全日通霞が関ビル 5 階
TEL: 03-3593-0139
FAX: 03-3593-0138
URL: www.butsuryu.or.jp

令和 8 年 10 月 6 日

令和 8 年度 第 1 回経営効率化委員会を開催

～「工場物流改革への挑戦」（第 1 回日本物流大賞「先進技術活用賞」受賞案件）と題した講演会を開催、委員会において令和 8 年度下期の活動計画が承認されました～

（一社）日本物流団体連合会（略称：物流連）は、9 月 28 日（月）、千代田区的全日通霞が関ビル会議室において、令和 8 年度 第 1 回経営効率化委員会（委員長：脇谷謙一氏 全日本空輸(株) 上席執行役員 貨物事業室長 兼 (株)ANA Cargo 代表取締役社長 兼 日本貨物航空(株) 取締役）を開催しました。

この「経営効率化委員会」は、物流業において経営上の課題となる問題について調査検討を行っており、労働生産性の向上、ダイバーシティ推進や危機管理など、テーマごとに適宜小委員会等を設置して調査を行うとともに、国の施策について情報提供等を行うため設置しているものです。

第一部の講演会には、(株)Mujin Japan 営業本部名古屋営業部長 松本圭太氏を講師にお招きして、第 1 回日本物流大賞「先進技術活用賞」受賞案件について、「工場物流改革への挑戦」と題してフィジカル AI を活用した物流・製造現場の自動化と、その将来像について講演いただきました。

講演では、最初に同社が 2011 年の創業時から取り組んできた「フィジカル AI」について説明があり、人間と同じように周囲の状況を認識し、自ら最適な動作を考え、実行する知能ロボットの仕組みについて、具体的な事例を交えながら詳しく解説されました。また、異なるメーカーのロボットや AGV、自動倉庫などを、自社開発の「MujinOS」や「Mujin コントローラ」によって統合的に制御することで、物流・製造現場全体の自動化・最適化を実現していることが紹介されました。

さらに、物理空間で稼働するロボットには高い安全性と確実性が求められることから、周辺環境の認識には AI を活用する一方、ロボットの動作や搬送ルート決定には数理モデルを用いるなど、安全性を担保する独自の技術について説明されました。加えて、今後、深刻な人手不足などを背景に物流・製造現場へのロボット導入が急速に拡大する中、個々の設備を部分的に自動化するのではなく、WES（倉庫実行システム）等を活用して各種設備やシステムを連携させ、全体最適を図ることが重要であると強調されました。

具体的な導入事例である今回の受賞案件について、(株)三五において、AGV やロボット、自動倉庫を組み合わせることで、トラック便数や荷待ち時間、物流コストの大幅な削減を実現した事例などが紹介され、自動化を成功させるためには、単にロボットを導入するのではなく、事業目標から逆算した構想設計と、物流工程全体を見据えたシステム構築が重要であるとの説明がありました。最後に、不定形物の自動化や人の作業との役割分担などについて活発な質疑応答が行われ、講演会は盛況のうちに終了しました。

引き続き行われた第二部の委員会では、「令和8年度 上期活動報告」として

1. 「A I の利活用に関する意識調査アンケート」の分析結果の報告
2. 先進技術活用推進情報交換会の実施

の2点の活動状況について事務局より報告しました。

続いて「令和8年度 下期活動計画(案)」について、

1. 先進技術活用推進情報交換会の実施
2. 施設見学会の実施
3. 「トラック輸送における取引環境・労働時間改善中央協議会」および「官民物流標準化懇談会」
ならびにその分科会等への参画

の3点を実施していく案が事務局より示され、原案通り承認されました。

今後も物流連は、本委員会の活動を通じ、物流業界の労働力不足、生産性向上を目指した取り組みを実施してまいります。

以 上
事務局 神谷



講師 松本圭太氏



脇谷委員長



経営効率化委員会風景